

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0373000710		
法人名	社会福祉法人 寿生会		
事業所名	グループホーム たのはた虹の家		
所在地	岩手県下閉伊郡田野畑村田野畑120-18 (電話) 0194-37-1125		
評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター3F		
訪問調査日	平成21年2月10日	評価確定日	3月19日

## 【情報提供票より】(平成 21年 1月 10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	4月	1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人	
職員数	9 人	常勤	9 人, 非常勤	0 人, 常勤換算	8.2 人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,500 円	その他の経費(月額)	1,500 円	
敷 金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780	円

### (4) 利用者の概要( 1月 10日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	4 名	要介護2	3 名			
要介護3	2 名	要介護4	0 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	83.6 歳	最低	70 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	田野畑診療所
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの立地する場所には、母体法人の運営する特別養護老人ホームや他の介護サービス事業所があるほか、診療所、地域包括支援センター、社会福祉協議会など医療、福祉、介護の専門機関が集約されている。町の中心地にあるため、交通の便がよい。グループホームは特別養護老人ホームと廊下繋がりで、管理者も兼務ということもあり、緊急時や災害時の対応など協力体制がよく取られている。また、診療所の医師は日常的にホームに訪れることが多く、自宅も近いために夜間、急変時でも対応するなど緊密な連携が図られている。このようなことが職員の安心感にも繋がっており、重度化対応や終末期に向けた取り組みを視野に入れて研修会を行なうなど、今後に向けた積極性が感じられた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価では、主な改善課題として3点が挙げられ、改善計画シートを作成して取り組んでいた。地域との付き合いでは、年2回の広報誌の発行を始めた。運営推進会議を活かした取り組みは、会議の中でAEDの研修実施や忘年会開催など工夫したが、発言が活発になる状況までは至らなかった。チームで作る利用者本位の介護は、アセスメント方法の検討を考えたが、担当者が代わり、再度最初から検討することになり、まだ取り組みは行われていなかった。今後、皆で再確認して、積極的な取り組みを期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に取り組む前に、計画作成担当者から評価の趣旨の説明が行なわれた。職員全員が個別に記入した自己評価の内容を、主任と計画作成担当者がまとめて完成させている。利用者に対する日常の支援の中での「気づき」の大切さを共有出来たことが有意義だったと感じる。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の議題はホームの運営状況報告が中心になっている。会議での発言はあまり無く、今年度はAEDの訓練実施などこれまでと違う取り組みも試みたが改善に繋げることは出来ていない。今後は、自己評価や外部評価の結果も議題に取り上げ、ホームの改善課題を話し合う事で、活発な議論が行われるようになることを期待する。現在ホームで検討している、消防署員など様々な方に会議出席を依頼することについても、積極的に取り組んで欲しい。</p>
重点項目 ③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には電話や面会時の話の他に、ホーム広報紙や個人毎の暮らしぶり等を書いた家族通信を定期的に送付し、生活の様子が伝えられている。平成19年度から家族アンケートを年一回実施し、意見や苦情等を表しやすいように積極的な取り組みが行われている。今までは改善に繋げるような意見や苦情などは挙げられていないが、今後も良い面は継続しながら更に充実した取り組みとしていきたい。</p>
重点項目 ④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ごく近所には民家が無く、日常的な行き来は行ないづらい環境になっているが、地区のお祭や学校の運動会、買い物等に出かけたりし、交流出来るように努めている。読み聞かせのボランティアも、今年度6回来訪している。ホームの広報紙を年2回発行して地域にも配布する事で、地域の方々に理解してもらえるように取り組みを始めている。特別養護老人ホームと併設しており、ともすると「小施設」と思われるとのことであり、馴染みの人や地域との関わりを持ちながらグループホームとしての存在を伝え、地域との連携一層を深めていくことが出来るように期待したい。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「温もりとやすらぎのある生活の場を提供します」を掲げ、キーワードには「健康・清潔・安心」をそれぞれ挙げている。これとは別に、「地域との結びつき」について重要事項説明書で謳っており、パンフレットや重要事項説明書などいくつかのものに異なる表現や内容で記載されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎年、年度始めの全体会(所内勉強会)で、理念の確認をしている。玄関や冷蔵庫など職員の目につく所に理念を書いて掲示している。職員は理念を理解しており、日常業務の支援が理念に結びつくよう取り組みが行なわれている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ごく近所には民家が無く日常的な交流は行なわれていないが、地区のお祭や学校の運動会、買い物等に出かけたりしている。読み聞かせのボランティアも今年度6回来訪している。自治会等には加入していない。ホームの広報紙を年2回発行している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に取り組む前に評価の趣旨の説明が行なわれた。職員全員が個別に記入した自己評価を主任と計画作成担当者がまとめて仕上げている。前回外部評価で挙げられた改善点については、改善シートを作成して改善に取り組み、改善に繋がったものと担当者が代わったために取組みが十分にできなかったものがあつた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、ホームの運営状況についての報告を中心に実施されている。今年度はAEDの訓練も実施した。会議での発言はあまり無く、これまでは運営等に関する意見は出されていない。	○	自己評価や外部評価の結果なども議題に取り上げることで、ホームの改善課題を話し合い、活発な議論がなされるようになることを期待する。現在、ホームで検討している消防署員など様々な方に会議出席を依頼することについても、積極的に取り組んで欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	公設民営であり、町には年度毎の事業報告が行われている。担当者が短期間での異動となる事が多いため、連携の意義はあまり感じられないとの思いがあり、行き来する機会とは作られていない。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	広報誌の他に、個人毎の暮らしぶりなどを書いた家族通信を隔月で送付し、日々の生活の様子が伝えられている。体調不良などの緊急時には、電話での連絡が行われている。金銭管理状況の報告は、毎月内訳書と領収書を家族に送付して行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	平成19年度から、家族アンケートを年一回実施し、意見等を表しやすいように取り組みが行なわれている。面会の際にも声をかけ、聞き取りが出来るように取り組まれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	母体法人事業所の諸事情により、4月に4人の職員異動が行われ、利用者から不安の声が聞かれている。異動に際して、職員の意見や意向を聞く事により職員への影響を軽減し、利用者への影響も軽減出来るように配慮したとのことである。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加の他、介護福祉士、ホームヘルパー、社会福祉主事、介護支援専門員等の資格取得についても支援し、積極的に取り組まれている。研修参加は職員の希望も取り入れている。内部研修は、毎月一回19時から21時30分ごろまで全員参加で実施されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、今年度は県グループホーム協会の研修会参加の一回のみとなっているが、昨年度までは県協会の沿岸ブロック研修にも参加し、交流が図られていた。	○	県や沿岸ブロックのグループホーム協会の研修会を積極的に活かすことを期待する。また他のグループホームの視察研修をホームとしても検討しているとの事であり、実施の機会を設けて、疑問点についての意見交換や交流などを行い、支援の質の向上に繋げられるようにすることを望む。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の都合での入居申し込みが多く、本人が同意しないままのために、事前の本人との面談や見学などは少ない状況である。入居してから不穏な行動等があれば、本人が納得するまで対応する支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活はゆったりしていて、職員は利用者に昔の暮らしの様子を教えてもらうなど会話を大切にしている。訪問中にも笑顔で会話している様子が見られていた。食事の片付けを一緒に行ったり料理を教えてもらったりして、一緒に過ごし支えあう関係を作っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中で、会話を通じて思いや希望を引き出すようにしている。意思表示が困難な方の場合には、日常生活から考えて本人の意向に沿った支援ができるよう配慮がなされている。アセスメントは独自の様式を使用しているが、過去の生活の様子などについて十分な情報が聞けない事もある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者毎の担当職員がアセスメントをして介護計画を作成し、サービス作成担当者と主任が内容を確認して完成させている。遠隔地に住む家族には介護計画を郵送し、同意の署名・捺印をもらい返送してもらっている。説明する機会が取れない事が多い。	○	より多くの職員の情報や意見を持ち寄り、皆で作る介護計画にする事が望まれる。本人や家族からも些細な情報でも聞き取りしてアセスメントし、介護計画に反映させていただきたい。ご家族へ説明する工夫をしていただき、意見を聞き取りながら、更によりよい介護計画となるよう配慮されることを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎にモニタリングを、6ヶ月毎に評価を行っている。急に状態等が変化した場合には、日々の申し送りでの対応の検討が行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に応じて美容院への付き添い、買い物の支援などが行なわれている。また、通院は家族対応を基本にしているが、遠隔地在住の家族が多く、付き添いができないときは職員が対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者7人は隣接する診療所の医師が主治医となり、体調不良時の往診などもなされ、日常的な関係が作られている。2人は入居前の医師が継続して主治医となっており、家族対応で通院している。口頭で病状伝達や結果報告など実施して、円滑に行なわれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでは重度化した場合は併設の特別養護老人ホームに入居していたため、重度者や終末期の方の支援は行なわれていなかった。かかりつけ医が診られる段階であればグループホームでも支援可能であり、今後医師と話し合いをして終末期までの支援を行ないたいと考えている。終末期支援の研修会にも取り組んでいる。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導の声掛けが他者に聞こえないようにする。訪室の際にはドアをノックする等の配慮がなされている。記録類は利用者などからは見えないところに置かれている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝に遅く起床して他の人とは別にゆっくり朝食を摂ったり、自室で22時過ぎまでテレビを見て過ごしたりと、その人のペースで生活できるように支援がなされている。ドライブで外出する場合も、本人の意向によって参加するかどうかが決められている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は利用者の希望を聞いて献立を決めるようにしており、意見が出ない時は選択肢の中から選んでもらうように工夫している。食事の最中は会話はほぼ無く、黙々と集中して食事していた。調理を行なう利用者は少なくなっているが、食後の片付けには多くの利用者が積極的に参加し活気が感じられた。また、職員も利用者の中に座るなど工夫し、少し会話があっても良いと思われる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間の希望を確認したら午後の希望が多かったとのことで、13時30分から16時頃まで入浴が行なわれている。ほとんどの方が毎日入浴、あるいはシャワー浴をしている。入浴時間は短い方で10分程度、長い方で30分程度とそれぞれの方に合わせて実施されている。検温して問題なければ入浴する。本人の訴えで入浴しない場合もある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の中で調理、畑作業、散歩、歌など思い思いに好きなこと、やりたい事を見つけて支援している。包丁研ぎや茶碗洗いなどを率先して行なう方もいる。本人の持つ得意なことや楽しみなどの生活歴情報を把握し、個々の方に合わせて働きかけるような支援はあまり多くないように感じられる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	屋外に出る希望が少なくなってきたが、暖かい時期は散歩など希望に沿うように支援している。冬場は寒いので、屋外に出ることはほとんど無くなっている。月一回程度、希望によりドライブも行なわれている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昨年11月までは鍵をかけないで支援が行なわれていた。その後、常に目を離すことができない利用者に対して鍵をかけずに対応するための支援方法など色々検討したが、現状では対応困難と判断し、安全確保のために通院など職員が手薄になる時間帯にのみ施錠が行なわれている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接特養ホームとの合同消防訓練も含め、毎月消防訓練が行なわれ、避難訓練には年数回利用者も参加している。災害時には地域協力者8名への連絡体制もあり、地域との連携ができています。火災想定への対応マニュアルが作成されている。地震への対応、訓練等はまだ行なわれていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	残食があれば記録して、食事摂取量の把握をしている。疾病による塩分制限やカロリー制限等の特別食の提供や粥食やキザミ食の提供など、利用者の状態に合わせた食事の提供が行なわれている。特養ホームの栄養士による献立の確認が定期的に行なわれている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の台所のそばにイスが並べられ、好んで座る方が多く見られた。小上がりの座敷が広く取られており、寛いで過ごしたり、その日の気分によりそこで食事を摂ったりできるようになっている。さりげなく緑や花が飾られ、季節感を取り入れ、落ち着いた雰囲気が作り出されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に働きかけても使い慣れた物などを持ち込む方は少ないとのことで、居室内に置かれている馴染みの物は少ない。しかし、居室の中に使い慣れたソファやテレビを置き、鉢植えの植物を窓辺にたくさん並べ、ご自分なりの部屋を作っている方もいらした。		